



3月12日、仙台市議会の第1回定例会が閉会しました。今回、音楽ホール・震災メモリアル施設の複合施設については、事業が進む一方で市民理解が十分に進んでいないという課題を指摘し、丁寧な情報公開と説明責任を強く求めました。また、ハウスメーカー等に新築建物への太陽光発電設備の設置を義務付ける条例案についても、実効性や市民負担、公平性の観点から論点を整理し、制度設計の妥当性をたしました。地域課題では、陸前高砂駅北口改札の設置、福田町駅移設の工期短縮、ゴミ屋敷対応など、暮らしに直結するテーマについて具体的に取り上げました。さらに、近年激甚化する豪雨を踏まえ、本市の冠水対策についても議論しました。私は議会で、現在の雨水整備基準が現実の降雨状況に照らして妥当なのかを問い直すとともに、河川や水路の流下能力が十分に確保されているのかという課題を指摘しました。整備基準を据え置くのか、それとも現実に合わせて見直すのか一本市の姿勢が問われています。

一般質問

- 結婚支援の成果検証と成婚まで切れ目ない支援体制の構築
- コミュニティセンターの鍵管理の見直しとデジタル化
- ハザードマップの地域特化型への進化と防災情報の活用
- 陸前高砂駅北側簡易改札の設置および福田町駅移設の工期短縮の結論時期
- ゴミ屋敷支援体制の構築と予防的介入
- 音楽ホール・震災メモリアル複合施設整備の事業整理と市民理解の在り方

議会録画中継は
こちらからアクセスを!



ゴミ屋敷問題への対応強化を提起

【質問】京都市を参考にした再発防止と早期介入に向けた支援の検討結果を問う

市内の深刻なゴミ屋敷事案では、ごみの撤去が進み、地域の不安は一定程度改善しました。一方で、再発防止には生活背景や心理面も含めた支援が不可欠です。また、予防段階での把握と早期介入も重要であることから、京都市の事例も参考に、今年度中に構築すると約束を頂いていた支援体制の検討状況は如何か。

【答弁】ごみ屋敷対策が前へ - 京都市事例を踏まえ、庁内連携組織立上げへ

ごみ屋敷の解消に加え、未然防止のためには居住者への働きかけも含め、関係局区の連携が不可欠です。新年度早期に対策会議を設置し、庁内連携を強化して個別案件に対応し、京都市の事例等も踏まえ、役割分担や支援のあり方を整理します。
(写真) ゴミ屋敷内部の事例



地域発展を支える JR 仙石線インフラ整備の推進について — 陸前高砂駅北側改札の実現と、福田町駅移設の工期短縮の明確化 —

【質問】 JR 仙石線「陸前高砂駅」一方向改札の是正と北側住民の利便性向上

陸前高砂駅は改札が南側のみに限定されており、北側住民が大きく迂回を強いられている現状は、都市機能の観点からも合理性を欠いています。IC改札が当たり前の時代に、都市部の駅で出入り口が一方のみという現状は好ましくない。今こそ、北側簡易改札の設置に向けて JR と問題意識を共有し、具体的な検討を進めるべきです。
(写真) JR 仙石線陸前高砂駅北側



【答弁】 まずは現状の課題の共有から - 陸前高砂駅北側改札設置に向けた検討へ

陸前高砂駅北側への簡易改札の設置については、駅が直接道路に面していないことから、アクセス用地の確保や駐輪場整備など、さまざまな課題があると認識しています。今後は、地域の皆様のご意向も踏まえながら、JR 東日本と現状の確認や課題の共有を図ってまいります。



【質問】 JR 仙石線「福田町駅」新駅開業前倒しの可否と短縮年数の明確化

福田町駅移設については、これまでも一貫して工期短縮を求めてきました。令和16年の新駅開業予定について、短縮の可否を含めた検討結果はいつ示されるのか。あわせて、仮に短縮が可能である場合、何年の前倒しが見込めるのか、明確な結論を示すべきです。

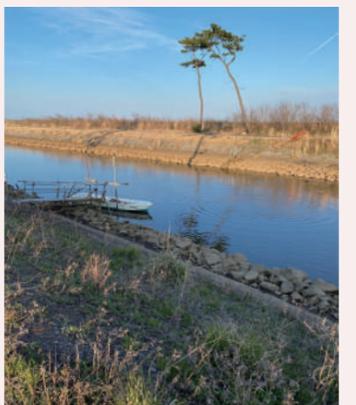


【答弁】 駅移設までの工期短縮の結論は「令和9年3月末」

JR 福田町駅の移設については、昨年度に JR 東日本による基本設計が完了し、現在は用地取得を進めるとともに、詳細設計や施工計画の検討が進められています。また、周辺水路の拡幅に向けた支障物の移設工事にも着手しています。工期短縮については、施工計画の中で検討が進められており、令和9年3月末までに結論が示される予定です。

悲願の新浜橋、再始動へ— 予備設計の再検証に 800 万円計上

岡田新浜地区における新浜橋の架橋について、新年度予算において予備設計の検証費用として 800 万円が計上されました。新浜橋は震災前に落橋し、その後も復旧されていない橋であり、地域の皆様にとって長年の悲願です。これについては、令和元年度に予備設計を実施し、架橋方法や位置の検討、費用試算を行いました。保安林解除や用地取得に関する課題、さらに多大な財政負担が見込まれることから、一度は見送られた経緯があります。今回は、これまでの検討内容を改めて精査・検証し、架橋方法や位置の再検討、概算事業費の再試算を行います。あわせて、仙台土木事務所や仙台森林管理署と協議を進めており、実現に向けた環境整備が進みつつあります。地域の声に応えるため、課題を整理しながら、実現可能性を高めていく重要な一歩です。
(写真) 貞山運河/新浜地区



震災前、ここには橋が架かり、海と地域の暮らしをつなぐ大切な往来路として利用されていました。